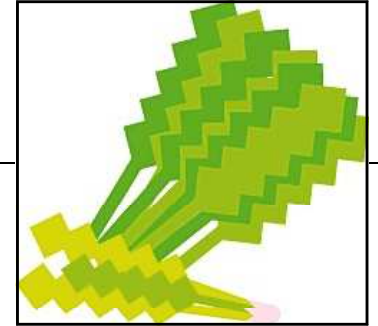


ほうれんそう連作

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ほうれんそう連作												

圃場の選定

肥沃で保水力のある耕土の深いところを選ぶ。
酸性に弱い作物であるため、pHは6.0～7.0に矯正しておく。



特性

発芽は15～20℃以上では悪く、限界温度は4℃、35℃。
従って、低温よりも高温で発芽率が低下し、日数も長い。

土壌管理

品質の良いものを収穫するためには、完熟した堆肥を10㎡当たり20kgまたはバーク堆肥を20kg全面に施して深く耕すことが大切。
特に、栽培条件が悪くなる初夏からの栽培には土づくりが大切。

各作型での注意点

春播き初夏どり

- ・生育が非常に早く、抽苔も早い。
- ・やや薄播きにして発芽を一斉にし、途中で2回程度間引く。



- ・追肥は中耕をかねて1～2回行う。
- ・施肥 肥料不足と密植は抽苔を促進し、品質低下、減収になるので注意する。
- ・播種 2/中
- ・播種量 3～4月播き裸種子：6～7 L/10a
5月播き裸種子：4～5 L/10a
- ・床幅2mに25cmの畦を切る。

夏播き秋どり

- ・堆肥が十分に入った肥沃な土壌でないと、水分調節ができないため土づくりの準備が重要。
- ・日中高温で栽培が困難なため、被覆資材により下温を図り、生育を助ける。
- ・品種 耐暑、耐病性のあるものを使用する。
- ・播種高温乾燥期には、種子を1晩冷水に浸け、冷蔵庫もしくは涼しいところに2～3日保存し催芽する。発芽したものが伸びすぎないうちに播き付ける。
- ・播種床には水をかけて、覆土の上には切りワラをかける。
- ・セル育苗を利用した移植栽培によっても立ち枯れ病の防止、圃場の有効利用が可能。

秋播き冬どり

- ・最も作りやすい時期で収量も多い。低温期の収量を保つにはハウスでの栽培が有利である。
- ・年内どりから翌年にかけて順次播種していく。
- ・播種 秋の乾燥には平畦作りが良い。
年内どりは9/上～10/中に播き、翌春どりには11/上～12/中に播種する。
- ・年内どりは本葉2～3葉で1回目、4～5葉で2回目の間引きを行い、株間5～6cmにする。
- ・翌春どりはあまり早めに間引きはしない。中耕は間引き時に軽く行う。

病虫害防除

発芽直後の立枯病、生育初期の虫害に注意する